

<h1>そだて</h1> <p>第285号</p>	<p>小千谷市 青少年育成センター</p>	<p>〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 0258-82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/</p>
---------------------------	---------------------------	--

後ろめたさと罪悪感の喪失

元保護司：城内町内会長

藤井 和夫



判決「懲役3年」と判決「懲役3年執行猶予5年」の違いを知っていますか。犯罪を犯した人が警察に捕まり罪を償う。犯罪歴が前科となる。検事と弁護士とのやり取りの裁判で裁判長が判決を下すテレビのサスペンスドラマを視聴したことはありませんか。

犯罪を犯した人が全て刑務所生活しているわけではないのです。そのことを知ったのは、保護司を委嘱されて犯罪を犯した人と関わりのある職務生活をした日々でした。「執行猶予」の判決が大きな焦点だったのに気づいたからです。「刑務所を執行するのを猶予される」ということ。つまり「猶予」とは、「しなくてもよい」をも含んでいる。「刑務所に入って、刑を償う任務をしなくてもよい」ということで、今までのように日常生活をしながら保護監察官や保護司と定期的に会い、更生を目指す日々を猶予の5年間を過ごすことなのです。個人情報保護されて犯罪を犯したという事は、近隣には知られないように保護司の観察を受けます。また、懲役刑で3年の判決であっても、刑務所生活が優良ということで2年経って早期退所で仮釈放となります。そして、残りの1年間は、保護観察を保護司が受け持っています。罪を償って自立更生への指針を考えさせて再犯しないように相談、支援をした保護司時代のことを思い出しています。

18歳から72歳の幾人かの関わりの中で発した「こんなはずじゃ無かった」「警察に捕まるとは思ってもみなかった」との一言が気になっていました。「これをしたら、どうなるの?」「しなかったら、どうなるの?」と小さい子どもがよく発していたことを思い出しました。覚えのある方もおられると思います。価値観の多様化の昨今、「悪いことをしている」意識が薄らいだ社会になってきたような気もしています。「こんなことをしたら、どうなっていくのか」の考えを得る機会や知る場面が成長していく中で無かったのかもしれませんが。軽はずみやゲーム感覚で「詐欺」「オレオレ詐欺」「覚醒剤」「ネット詐欺」に巻き込まれるそんな世の中になっているような気がしています。

やんちゃな時代にやった「いじめ」「差別」「中傷」「偏見」「人権無視」の行為が、大人になり、著名人になってから「しっぺ返し」となった事例を最近、目の当たりにしました。世の中が許さなくなってきたのかもしれませんが。権力を笠に着る逸脱した行為、人間としてのルールをわきまえる、人間としての社会生活の中で利害関係からの様々な人間模様が自己責任となってきていることに気づいて欲しいものです。「万引き」「出し子」も軽い気持ちからの行為。やってしまってから「悔やんだ声」を聞く。やはり、「こんなはずじゃなかった」と。人生100年時代に突入の今、『上を見れば、切りが無い。後ろを見れば、後が無い。』それぞれに人の生き方がうかがえる日々。心の持ち方で、一瞬に生き方が負に変わってしまう場面に、その瞬間をどう判断するか。心の中の制御力が人間としての「後ろめたさ」と「罪悪感」の存在が重要だと思っています。人生の卒業に向かって、その年代ごとに過ごした日々を私は今、思い浮かべながら一筆しました。

☆～「愛の一声」～☆



青少年補導委員さんによる街頭声かけ活動の感想を抜粋で御紹介します。

- ・小千谷駅では部活帰りと思われる高校生を多数見かけた。私は声をかけられませんでしたでしたが、Sさんが「気をつけて帰ってください」と声かけしてくださり温かい雰囲気につつまれました。
- ・外で会う人数は少なかったですが、地域の様子が伺えたこと、挨拶した人が元気に返してくださったので良かったです。
- ・今回は歩いて小千谷を探索。暗い道では危ない所はないか見回りしました。たくさん歩いて充実した街頭補導でした。
- ・旭橋の袂にホームレスが住んでいる痕跡があった。危ないので情報共有すべきか？
⇒センター長より小千谷警察に情報提供しました。
- ・問題行動を取っている生徒がいる、いないに関わらず、こうして巡回することが抑止力にもつながらと考えますので引き続き行っていくことに意味があると思いました。
- ・水の危険がある場所を重点的に回りました。（7月17日巡回実施）
- ・自転車乗りスマホの子がおり、声をかけました。元気に挨拶をしながら駅方向に向かって歩いて行きました。歩きスマホの子は何の応答もなくすたすた通りすぎて行きました。
- ・錦鯉地下道、通行人はいなかった。天井の数箇所の破損やクモの大きな巣が複数あり、錦鯉地下道＝「小千谷の玄関」としての小千谷のイメージ低下が心配される気がした。
- ・防災公園・スケボーを楽しむ方が増えたという。ゴミなどの散乱はなく、マナーを守りながら行っている。小千谷駅では小千谷高校、西高校の学生156人と挨拶すると、全ての学生が応えてくれた。



★ 毎年10月1日から11月30日までの2ヶ月間

「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」が全国一斉に実施されています。

本運動は麻薬、覚せい剤、大麻、シンナー、危険ドラッグなどの薬物乱用による弊害を正しく認識していただき、薬物乱用による弊害の根絶を目的とします。薬物の正しい知識を身に付けて、薬物乱用を撲滅しましょう！

★ 厚生労働省では、毎年11月を

「児童虐待防止推進月間」と定め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための広報啓発活動など様々な取り組みを集中的に実施します。

＜青少年育成センターより＞

秋は様々な運動が全国展開されますが、過去の標語に「気づくのはあなたと地域の心の目」（児童虐待防止推進月間・平成24年度最優秀作品）とあるように補導委員になってくださった皆様が定期的に巡回し優しい声かけや元気な挨拶をしてくださることや、心の目で見守ってくださることなどのお陰で小千谷の子どもの安全が守られているのだと思います。愛の声かけは「外見上問題のない普通の子が、予想もできない事件や行動を起こすことが最近の特徴となっていることから、外見的には問題のない普通の子に対しても、健全育成の視点で声かけしていこう」という趣旨でお願いしています。今年もコロナ禍、猛暑や雨の日、子ども達に出会わないこともある活動の中で皆様から巡回していただき本当にありがとうございます。